

信用格付を付与するために用いる方法の概要（金融機関－保険会社と不動産投資信託を除く）

フィッチの金融機関の分析は、定性的要因および定量的要因（内部要因、外部要因）に基づき行われ、金融機関に付与する発行体デフォルト格付(IDR)の決定要因となる。定性的要因の例としては、営業基盤および経営管理能力があげられる。定量的要因の例としては、資本基盤、収益性および資産の質などがある。当該要素の相対的なウェイト付けは、個々の状況によって異なる場合がある。外部要因としては、当該金融機関経営を取り巻く経済環境、法律上、規制上、財政上の枠組み、当該国の金融システムの構造などがある。

すべての金融機関分析において、ほとんどの場合に格付決定の主な要因となる5つの主要な要素は以下のとおりである。最終的な格付決定における各要素の相対的な重要性は、金融機関によって異なる。

- 業界特性および事業環境
- 会社概要およびリスク管理
- 財務特性
- 経営戦略およびコーポレート・ガバナンス
- 企業の所有形態、支援およびグループ要因

フィッチでは、これらの各格付カテゴリーまたは各カテゴリー内の様々な要素について、予め一定のウェイト付けを行うことはない。これは、個々の事情により適切なウェイトが異なってくると考えるためである。一般的な指針として、あるカテゴリーが他より著しく弱い場合、この最も弱い要素が分析においてより大きなウェイトを占める傾向がある。

本格付方法の詳細については、「Global Financial Institutions Rating Criteria」（2011年8月16日付格付基準レポート）をご覧ください。